

## ● 2022年論説文好評（森忠彦）

今年の論説文は二つのテーマを設けました。一つは「『大人になる』とはどういうことなのか?」。4月から法律が変わり、それまで20歳だった「成人」の年齢が18歳へと引き下げられました。大半が高校3年生で「大人になる」時代になったのです。これは世界の主流が18歳成人であることや、選挙権が先に与えられていたこともあって、政治がやや急いで無理に進めた感があります。当事者である18歳、19歳の人たちはもちろんのこと、間もなく18歳を迎える中高生にとっても、急に迫った「大人」については、戸惑いの感情が強いようです。今回は論説文の3分の2が、このテーマに集中しました。

力作ぞろいでしたが、優秀賞に輝いたのは「臆気になった大人」。幼児期からの自分の経験をもとに「成長するに従って『大人』というモノがどんどん変わっていった」というユニークな視点で文章を進めてゆきます。そして成長するに伴って広がった「活動範囲」に注目して、「『大人』は年齢によってなれるものではなく、活動範囲に依存する」と定義します。自分なりの定義を明確に打ち出すことで、論旨がはっきりと見えてきます。最後には活動領域を広める手段として「世界を学ぶ」という結論に達します。この世界は海外、外国という意味だけでなく、「知らない世界」も含まれているのでしょう。定義があって、自分なりの結論へと無理なく導いてゆく。読ませる工夫もされた、明確な論説文でした。

奨励賞は「今の時代の大人」と「『大人になる』とはどういうことなのか?」。前者はまさに当事者の高校3年生。女子ならではの視点で、「女性の結婚と妊娠について」にテーマを絞ります。具体的な話として、婦人科に勤務する母親の経験を取り上げ、等身大で自分にも起こりうることとしてこの問題をとらえ、「自分が周囲に与える影響まで考えて責任を持つことが必要」として、それができる人が「大人」だと論じます。冒頭で主旨を明快に語り、文末で結論をまとめる、お手本のような論説文でした。

後者の方も、基本パターン通りの、すっきりした論の運びでした。他の作品のほとんどが「18歳成人」である現実を前提としていたのに対して、この作品は「成人年齢は22歳に引き上げてほしい」と冒頭で明示している点が印象的でした。最初に自説を明示し、三つの理由から18歳で成人することの無理、疑問を詳述してゆきます。筆者は中学1年生ですので、成人するまでにあと5年近くありますね。そのことの迷いや悩みがどこかで触れられれば、より等身大の作品になったでしょう。

佳作の「織りなすは人の営み」は、高尚なタイトルにふさわしく、いろいろと調べてきた知識が盛り込まれた内容でした。もう少し、自分の等身大の経験が入ると、読み手は納得できたでしょうが、「子供は見てきた周りの大人以上の大人にはならない」という主張は、今の大人たちにぜひ聞かせてやりたい、未成年の本音のように聞こえました。

いずれの作品も、文章をまとめることで「大人になることの難しさ」に気づいてくれたような気がします。その気づきこそが大人になるために第一歩、なのではないでしょうか。

もう一つのテーマは「『地球人』として大切にすることは？」。2月に起こったロシアによるウクライナへの軍事侵攻はその後も続き、世界が不安定な状態は今も続いています。エネルギーと食料の不足や、それに伴う物価高など、紛争地以外の所にも大きな影響を及ぼしている状況の中で、「地球人」であることの意味を考えてほしかったため、設けたテーマです。

奨励賞の「わたしたちは地球人」は、論説文というよりも随筆的な文章でしたが、読みやすい、すっきりした好感度の高い内容でした。書き出しとまとめで「みんな同じ空の下にいる」という言葉を使い、「同じ地球人」であることの意味を訴えました。11月に世界人口が80億人に達するという国連予測などの国際ニュースも効果的に使いながら、自分の最大の関心事である言葉の話で「コミュニケーション」の重要性を説きます。そして「言語活動を通して異なる文化を知り、友人たちや家族にその魅力を伝えたい」との思いを伝えます。これから数年間の学びで、ぜひ実現してほしいと思いました。

佳作の「優しく親切に、そして」も、カギカッコの書き出しや会話体をうまく使った、読みやすい論説文でした。小学生の時に体験した海外での出来事や、外国籍の同級生も多かった教室での経験などを通して、世界が決して平等、公平でないことに気づきます。「外の世界が少し灰色にくすんでいくような気がした」という思いから、「どうすれば疎外感のない世界になるのか」という課題にぶち当たる……。簡単な解決策はなくとも、「人に優しく親切に」という思いを抱くことが、解決の第一歩であることは間違いありません。

論説文であれ、エッセイであれ、基本は他人に読んでもらうことを前提に書く文章です。自分だけのための日記とは違います。読者が読みやすいような心配りをすることは、文章を書く時の鉄則です。これからも具体的な話が入った、読みやすい文章を書き続けてください。